

京都大学

教職課程ポートフォリオ

入学年度： _____ 年度

所 属： _____

学生番号： _____

ふり かな
氏 名： _____

目次

ポケット番号

■ 表紙と目次	…	1
■ 教職課程全体の振り返りレポート	…	2
■ 履修カルテ	…	3
■ 年度ごとの目標設定と振り返り	…	6
■ セクションA. 教職に求められる教養	…	10
➤ 学級経営案	…	11
➤		
➤		
➤		
➤		
■ セクションB. 生徒理解と人間関係構築力	…	16
➤ 学校での活動の記録	…	17
➤		
➤		
➤		
➤		
■ セクションC. 教科内容に関する知識・技能	…	22
➤ 教材研究の記録	…	23
➤		
➤		
➤		
➤		
■ セクションD. 教科等の授業づくりの力量	…	28
➤ 学習指導案と振り返りのメモ	…	29
➤		
➤		
➤		
➤		
■ セクションE. 課題探究力	…	34
➤ 自分で設定した課題に関するレポート	…	35
➤		
➤		
➤		
➤		
■ その他	…	40

所属: 入学年度: 学生番号: 氏名:

I. 含めることが必要な事項	①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項	②社会性や対人関係能力に関する事項	③生徒理解や学級経営等に関する事項	④教科等の指導力に関する事項
到達目標	○教育に対する使命感や情熱を持ち、常に生徒から学び、ともに成長しようとする姿勢が身に付いている。	○教員としての職責や義務の自覚に基づき、目的や状況に応じた適切な言動をとることができる。	○生徒に対して公平かつ受容的な態度で接し、豊かな人間的交流を行うことができる。	○教科書の内容を理解しているなど、学習指導の基本的事項(教科等の知識や技能など)を身につけている。
	○高い倫理感と規範意識、困難に立ち向かう強い意志を持ち、自己の職責を果たすことができる。	○組織の一員としての自覚を持ち、他の教職員と協力して職務を遂行することができる。	○生徒の発達や心身の状況に応じて、抱える課題を理解し、適切な指導を行うことができる。	○板書や話し方、表情、ICT活用など授業を行う上での基本的な指導技術を身に付けている。
	○生徒の成長や安全、健康を第一に考え、適切に行動することができる。	○保護者や地域の関係者と良好な人間関係を築くことができる。	○生徒との間に信頼関係を築き、学級集団を把握して、規律ある学級経営を行うことができる。	○生徒の反応や学習の定着状況に応じて、授業計画や学習形態等を工夫することができる。

II. 求められる力量	A. 教職に求められる教養	B. 生徒理解と人間関係構築力	C. 教科内容に関する知識・技能	D. 教科等の授業づくりの力量	E. 課題探究力
目標到達の確認指標	<input type="checkbox"/> A1 生徒理解の重要性や、教員が担う責任の重さを理解している。	<input type="checkbox"/> B1 教員の使命や職務について基本的な理解に基づき、自発的・積極的に自己の職務を果たそうとする姿勢を持っている。	<input type="checkbox"/> C1 学習指導の基本的事項(教科等の知識や技能)を身につけている。	<input type="checkbox"/> D1 板書や発問、的確な話し方など基本的な授業技術と表現力を身に付けるとともに、生徒の特徴を的確に把握し、生徒の反応を生かしながら、集中力を保った授業を行うことができる。皆で協力して取り組む姿勢を育む指導法等を身につけている。	<input type="checkbox"/> E1 自己の課題を認識し、その解決に向けて、自己研鑽に励むなど、常に学び続けようとする姿勢を持っている。
※達成できた項目の□は■に変えること。	<input type="checkbox"/> A2 憲法、教育基本法など、学校教育に関する基本的な法律の趣旨を理解している。	<input type="checkbox"/> B2 気軽に生徒と顔を合わせたり、相談に乗ったりするなど、親しみを持った態度で接することができる。	<input type="checkbox"/> C2 自ら主体的に教材研究を行うとともに、それを活かした学習指導案を作成することができる。	<input type="checkbox"/> D2 基礎的な知識や技能について反復して教えたり、板書や資料の提示を分かりやすくするなど、基礎学力の定着を図る指導法を工夫することができる。	<input type="checkbox"/> E2 社会状況や時代の変化に伴い生じる新たな課題や生徒の変化を、進んで捉えようとする姿勢を持っている。
	<input type="checkbox"/> A3 人権教育、特別支援教育、民族教育などについて、基本的な知識を身につけている。	<input type="checkbox"/> B3 生徒の声を真摯に受け止め、生徒の健康状態や性格、生育歴等を理解し、公平かつ受容的な態度で接することができる。	<input type="checkbox"/> C3 教科書の内容を十分理解し、教科書を介して分かりやすく学習を組み立てるとともに、生徒からの質問に的確に答えることができる。	<input type="checkbox"/> D3 ICTを効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方について理解し、基礎的な指導法が身につけている。	<input type="checkbox"/> E3 創造性のある指導計画(指導案、学級経営案など)を作成し、それに基づく実践をしようとする姿勢を持っている。
	<input type="checkbox"/> A4 個々の生徒の特性や状況に応じた対応を修得している。	<input type="checkbox"/> B4 他者(他の教職員)の意見やアドバイスに耳を傾けるとともに、理解や協力を得ながら、自らの職務を遂行することができる。		<input type="checkbox"/> D4 誠実、公平かつ責任感を持って生徒に接し、生徒から学び、共に成長しようとする意識を持って、指導に当たることができる。	<input type="checkbox"/> E4 「児童生徒にこれだけは伝えたい」と思えるような体験談、メッセージなどを持っている。
	<input type="checkbox"/> A5 歴史的かつ体系的な視点から、現代社会における教職の置かれた状況を理解している。	<input type="checkbox"/> B5 挨拶や服装、言葉遣い、他の教職員への対応、保護者に対する接し方など、社会人としての基本が身につけている。		<input type="checkbox"/> D5 生徒の成長や安全、健康管理に常に配慮して、具体的な教育活動を組み立てることができる。	

III. 教職実践演習の授業内容例					
	いじめや不登校、特別支援教育等、今日的な教育課題に関する役割演技(ロールプレイング)や事例研究、実地視察等	教育実習等の経験を基にした学級経営案の作成、実際の事例との比較等	休み時間や放課後の補充指導、遊びなど、生徒と直接関わり合う活動の体験	教科書にある題材や単元等に応じた教材研究の実施	教材・教具、学習形態、指導と評価等を工夫した学習指導案の作成
	個々の生徒の特性や状況を把握し、生徒を一つの学級集団としてまとめていく手法についての役割演技(ロールプレイング)や事例研究等	様々な場面を想定した役割演技(ロールプレイング)や事例研究	学校における校外学習時の安全管理 学校における現地調査(フィールドワーク)	教科内容に関する幅広い/深い知識・技能の習得	模擬授業の実施(ICT活用を含む)
		現職教員との意見交換	関連施設・関連機関(社会福祉施設、医療機関等)における実務実習や現地調査(フィールドワーク)		

京都大学教職課程 履修カルテ(自己評価用ルーブリック)

※達成できたレベルの□を■に変えること。

所属:

入学年度:

学生番号:

氏名:

II. 求められる力量	A. 教職に求められる教養	B. 生徒理解と人間関係構築力	C. 教科内容に関する知識・技能	D. 教科等の授業づくりの力量	E. 課題探究力
6. 合格レベル(優) (教職課程修了時)	□ 単位修得した科目で得た知識をもとに、学校で起こる様々な事象についての確に観察し、その知見を踏まえて、生徒の発達を効果的に促すような学級経営案を書くことができる。	□ 多様な生徒たちの様々なニーズに配慮し、公平かつ受容的な態度で接するとともに、一人ひとりの生徒を伸ばすような関わりができる。様々な関係者の理解や協力を得ながら、自分の職務を効果的に果たすことができる。	□ 教科内容を幅広く深く理解し、魅力的・効果的な指導を展開できる知識・技能を身につけている。二つ以上の単元について、生徒たちの発想やつまづきを予め想定し、生徒たちを引きつけつつ力をつける授業づくりに役立つような教材研究を行っている。	□ 生徒の特徴を把握し、それに対応できる様々な指導上の工夫を行って、すべての生徒に効果的な学習を促すような魅力的な授業を実践することができる。	□ 常に新しいことにチャレンジする姿勢をもち、自己研鑽に努めている。自分の資質・能力を活かすような、優れた創造力を発揮している。
5. 合格レベル(良) (教職課程修了時)	□ 単位修得した科目で得た知識をもとに、学校で起こる様々な事象について観察し、その知見を踏まえて、生徒の発達を促すような学級経営案を書くことができる。	□ 様々な生徒に対し、積極的に関わることができる。指導教員からのアドバイスを取り入れつつ、生徒への関わりを改善することができる。	□ 教科書の基本的な内容を、的確に理解している。二つ以上の単元について、魅力的・効果的な指導に役立つような教材研究を行っている。	□ 生徒の特徴を把握し、それに対応できる様々な指導法を用いて、多くの生徒の集中を途切れさせないような授業を実践することができる。	□ 教育実習を修了するとともに、自分の到達点と課題を的確に自覚している。様々な学習機会を積極的に活用し、効果的に力量形成を図っている。
4. 合格レベル(可) (教職課程修了時)	□ 単位修得した科目で得た知識をもとに、学校で起こる様々な事象について観察し、その知見を踏まえた学級経営案を書くことができる。もしくは、学級経営案の項目を視点に実践事例を分析することができる。	□ 生徒に対し、自分から関わろうとする姿勢を示している。求められている職務を自主的に、期限を守って行うことができる。	□ 教科書の内容を、一通り理解している。少なくとも一つの単元について、指導に役立つような教材研究を行っている。	□ 基本的な指導技術を使って、筋の通った1時間の授業を実践することができる。	□ 教育実習を修了するとともに、自分の到達点と課題を自覚している。課題を克服するための努力を始めている。
3. 教育実習前に求められる準備レベル (およそ3回生終了時)	□ 必要な単位の少なくとも3分の2程度を修得している。学級経営案の基本的な書き方を知っている。	□ 生徒に対し、親しみをもった態度で接した経験がある。(介護等体験において、適切に行動できる。)	□ 必要な「教科に関する科目」の単位について少なくとも3分の2程度を修得している。教育実習で教える単元について、必要な知識・技能を身につけている。	□ 教科教育法を少なくとも一つは履修し、学習指導案の基本的な書き方を知っている。模擬授業を少なくとも1回は行い、多人数に対して話すことのイメージを把握している。	□ 教育実習生であっても、生徒の前では一人の教師としての責任を担うことを自覚している。「生徒にこれだけは伝えたい」と思えるような体験談、メッセージなどを持っている。
2. 教育実習1年前に期待されるレベル (およそ2回生終了時)	□ 必要な単位の少なくとも3分の1程度を修得している。	□ 社会人としての基本的なマナー、ルールを守って行動できる。	□ 必要な「教科に関する科目」の単位について、少なくとも3分の1程度を修得している。	□ 様々な人に対して、自分の思いや意見を、わかりやすく伝えることができる。	□ 課題探究の基本的な方法(調査の仕方、ゼミ発表の仕方、レポートの書き方など)を身につけている。
1. 学び始めのレベル (およそ1回生終了時)	□ 日本国憲法の単位を修得している。	□ 様々な友人と接したり、深く語り合ったりして、人間としての幅を広げている。	□ 体育、外国語コミュニケーション、情報機器の操作などの単位を修得している。	□ 身近な人に対して、自分の思いや意見を伝えることができる。	□ 自己成長にとって必要だと自分で確信できるような体験をしている。

所属:

回生:

氏名:

学生番号:

連絡先(電話):

連絡先(メール):

取得希望免許の学校階梯:

取得希望免許の教科:

免許取得希望年月:

年3月(あと 年)

II. 求められる 力量	A. 教職に求められる教養	B. 生徒理解と 人間関係構築力	C. 教科内容に関する 知識・技能	D. 教科等の授業づくりの 力量	E. 課題探究力
これまでに達成できた 「目標到達の確認指標」 ※履修カルテ(自己評価用 チェックリスト)を参照					
現在のレベル ※履修カルテ(自己評価用 ルーブリック)を参照					
教職課程ポートフォリオ に蓄積した成果資料の リスト					
力量形成の達成状況に 関するコメント (順調か? 主な達成点 は?)					
自分にとって、次年度の 主な課題は何か?					
意見・感想・質問など					
今年度、教職課程ポートフォリオ検討会に参加しましたか?	はい (参加した日: _____年 _____月 _____日) ・ いいえ				

年度ごとの目標設定と振り返り

_____年度 所属 _____ 回生

学生番号 _____ 氏名 _____

取得希望免許 _____ 取得希望年月 _____ 年 3 月

1. 今年度に達成したいこと（記入日： _____ 年 _____ 月 _____ 日）	
2. 今年度に達成できた確認指標と到達レベル（記入日： _____ 年 _____ 月 _____ 日） ※履修カルテ（自己評価用チェックリスト）の「目標到達の確認指標」を参照すること。 A : B : C : D : E :	※履修カルテ（自己評価用ルーブリック）を参照すること。 A : B : C : D : E :
3. 今年度に達成できたこと、残されている課題（記入日： _____ 年 _____ 月 _____ 日）	
4. 教職課程ポートフォリオ検討会での気づき（記入日： _____ 年 _____ 月 _____ 日）	

※ポートフォリオを検討してくれた仲間からのコメント（付箋紙）を裏面に貼ること。

※枚数が足りない場合は、各自でコピーすること。

確認者押印欄

--

目標に到達したことを示す成果資料

セクション A. 教職に求められる教養

■趣旨

教師になると、授業を教えるだけでなく、学級担任などとして生徒を指導する役割を担うこととなります。そこで教師には、個々の生徒の発達やニーズ、生徒たち間の人間関係、人権、法律、他の教職員や保護者との協力といった様々な要素に配慮した人間関係構築力、生徒指導力が求められます。

このセクションでは、対応する科目の単位修得等を通して、人間として、教師として求められる教養を身につけていきましょう。そのような教養は、上述したような実践力の基礎となります。

■下記は、期待される水準の目安を示したものです。

レベル	期待される水準	レベル到達の確認年月日	
		自己評価	教員の確認
6. 合格レベル（優） （教職課程修了時）	単位修得した科目で得た知識をもとに、学校で起こる様々な事象についての的確に観察し、その知見を踏まえて、生徒の発達を効果的に促すような学級経営案を書くことができる。		
5. 合格レベル（良） （教職課程修了時）	単位修得した科目で得た知識をもとに、学校で起こる様々な事象について観察し、その知見を踏まえて、生徒の発達を促すような学級経営案を書くことができる。		
4. 合格レベル（可） （教職課程修了時）	単位修得した科目で得た知識をもとに、学校で起こる様々な事象について観察し、その知見を踏まえた学級経営案を書くことができる。もしくは、学級経営案の項目を視点に実践事例を分析することができる。		
3. 教育実習前に求められる準備レベル （およそ3回生終了時）	必要な単位の少なくとも3分の2程度を修得している。学級経営案の基本的な書き方を知っている。		
2. 教育実習1年前に期待されるレベル （およそ2回生終了時）	必要な単位の少なくとも3分の1程度を修得している。		
1. 学び始めのレベル （およそ1回生終了時）	日本国憲法の単位を修得している。		

■下記の目標については、主として次に示した対応する科目等によって到達をめざすこととなります。

目標到達の確認指標	対応する科目等	関連する科目
□A1 生徒理解の重要性や、教員が担う責任の重さを理解している。	教職教育論	全科目
□A2 憲法、教育基本法など、学校教育に関する基本的な法律の趣旨を理解している。	日本国憲法	教育行政学概論 I・II
□A3 人権教育、特別支援教育、民族教育などについて、基本的な知識を身につけている。	教育実習直前オリエンテーション	道徳教育論
□A4 個々の生徒の特性や状況に応じた対応を修得している。	教育心理学Ⅰ(教育・学校心理学)、教育心理学Ⅱ(教育・学校心理学)、教育心理学Ⅲ、生徒指導論、生徒指導と進路指導の理論と方法Ⅰ、生徒指導と進路指導の理論と方法Ⅱ、生徒指導の精神と具体的方策、教育相談(教育・学校心理学)	
□A5 歴史的かつ体系的な視点から、現代社会における教職の置かれた状況を理解している。	比較教育学/教育原理Ⅰ・教育原理Ⅱ/教育人間学概論Ⅰ/比較教育制度論/教育社会学概論Ⅰ/教育行政学概論Ⅰ・教育行政学概論Ⅱ/教育学概論Ⅰ・教育学概論Ⅱ	
□A6 教職の意義や役割、職務内容、生徒に対する責務等を理解している。	教職教育論	
□A7 生徒を一つの学級集団としてまとめていく手法を身につけている。生徒の特性や心身の状況を把握した上で学級経営案を作成することができる。	総合的な学習および特別活動の指導法Ⅰ、総合的な学習および特別活動の指導法Ⅱ、特別活動の理論と実践、教育相談(教育・学校心理学)、道徳教育論	道徳教育論
□A8 学級担任の役割や実務、他の教職員との協力の在り方等を修得している。	教職教育論、総合的な学習および特別活動の指導法Ⅰ、総合的な学習および特別活動の指導法Ⅱ、特別活動の理論と実践	
□A9 他の教職員と協力した校務運営の重要性を理解している。学校組織の一員として、独善的にならず、協調性や柔軟性を持って、校務の運営に当たる必要性を理解している。	教職教育論 教育相談(教育・学校心理学)	
□A10 保護者や地域との連携・協力の重要性を理解している。保護者や地域の関係者の意見・要望に耳を傾けるとともに、連携・協力しながら、課題に対処することの重要性を理解している。	教職教育論 教育相談(教育・学校心理学)	

■ポートフォリオには、次のような成果資料を残しましょう（下線部は必須）。

- 生徒の発達や特別なニーズなどに関するレポート（A1、A4）
- 生徒に関する観察記録（A1、A4） ※生徒の個人情報を記載しないこと。
- 人権保障に関する考察レポート（A2、A3）
- 教師の役割、学校組織などに関するレポート（A5、A6、A7、A8、A9、A10）
- 先行する実践事例に関するレポート（A6等）
- 学級経営案（生徒理解や学校のあり方に関する考察に裏付けられたもの）、もしくは学級経営案の項目を視点にした学級経営(学級集団づくりを含む)に関する事例研究レポート（A6、A7、A8等）

目標に到達したことを示す成果資料

セクションB. 生徒理解と人間関係構築力

■趣旨

教師になると、授業を教えるだけでなく、学級担任などとして生徒を指導する役割を担うこととなります。そこで教師には、個々の生徒の発達やニーズ、生徒たちとの人間関係、人権、法律、他の教職員や保護者との協力といった様々な要素に配慮した人間関係構築力、生徒指導力が求められます。

このセクションでは、実際に人間関係構築力や生徒指導力が求められる場面で、的確に行動できる力を身につけていきましょう。

■下記は、期待される水準の目安を示したものです。

レベル	期待される水準	レベル到達の確認年月日	
		自己評価	教員の確認
6. 合格レベル（優） （教職課程修了時）	多様な生徒たちの様々なニーズに配慮し、公平かつ受容的な態度で接するとともに、一人ひとりの生徒を伸ばすような関わりができる。様々な関係者の理解や協力を得ながら、自分の職務を効果的に果たすことができる。		
5. 合格レベル（良） （教職課程修了時）	様々な生徒に対し、積極的に関わるができる。指導教員からのアドバイスを取り入れつつ、生徒への関わりを改善することができる。		
4. 合格レベル（可） （教職課程修了時）	生徒に対し、自分から関わろうとする姿勢を示している。求められている職務を自主的に、期限を守って行うことができる。		
3. 教育実習前に求められる準備レベル （およそ3回生終了時）	生徒に対し、親しみをもった態度で接した経験がある。（介護等体験において、適切に行動できる。）		
2. 教育実習1年前に期待されるレベル （およそ2回生終了時）	社会人としての基本的なマナー、ルールを守って行動できる。		
1. 学び始めのレベル （およそ1回生終了時）	様々な友人と接したり、深く語り合ったりして、人間としての幅を広げている。		

■下記の目標については、主として次に示した対応する科目等によって到達をめざすこととなります。

目標到達の確認指標	対応する科目等	関連する科目
□B1 教員の使命や職務について基本的な理解に基づき、自発的・積極的に自己の職務を果たそうとする姿勢を持っている。	教育実習Ⅰ・Ⅱ	教職教育論 教職実践演習
□B2 気軽に生徒と顔を合わせたり、相談に乗ったりするなど、親しみを持った態度で接することができる。	教育実習Ⅰ・Ⅱ	教職実践演習
□B3 生徒の声を真摯に受け止め、生徒の健康状態や性格、生育歴等を理解し、公平かつ受容的な態度で接することができる。	教育実習Ⅰ・Ⅱ	教職実践演習
□B4 他者（他の教職員）の意見やアドバイスに耳を傾けるとともに、理解や協力を得ながら、自らの職務を遂行することができる。	教育実習Ⅰ・Ⅱ 介護等体験	教職教育論 教職実践演習
□B5 挨拶や服装、言葉遣い、他の教職員への対応、保護者に対する接し方など、社会人としての基本が身についている。	教育実習Ⅰ・Ⅱ 介護等体験	教職実践演習

■ポートフォリオには、次のような成果資料を残しましょう（下線部は必須）。

- 学校での活動の記録（教育実習ノートの日誌部分から、生徒とどのように接したのか、指導教員からのアドバイスをどのように生かしたのかが分かるようなページを選んで、コピーを収録するのでも可）（B1、B2、B3、B4、B5）
- 教育実習などにおいて指導教員からいただいたコメント（B1、B2、B3、B4、B5）
- 教育実習などにおいて生徒たちからもらったコメント（B1、B2、B3）
※生徒の個人情報は削除すること。
- 学生ボランティア等で生徒と接した活動の記録（B1、B2、B3、B4）
※生徒の個人情報を記載しないこと。
- 課外活動などで、リーダーシップを発揮したことを示す成果資料（B4）

目標に到達したことを示す成果資料

セクションC. 教科内容に関する知識・技能

■趣旨

教師には、指導する教科内容に関して、幅広く深い知識と技能を身につけていることが求められます。教科書の内容を把握しているのは当然のこと、その内容が持っている学問的な意味や、その内容を学ぶ意義を理解してはなりません。

このセクションでは、教科に関する科目の単位修得を通して、教科内容に関して求められている知識・技能を身につけましょう。また、教科教育法での学習を通して、教科内容を魅力的・効果的に教えるため教材を作る力を身につけましょう。

■下記は、期待される水準の目安を示したものです。

レベル	期待される水準	レベル到達の確認年月日	
		自己評価	教員の確認
6. 合格レベル（優） （教職課程修了時）	教科内容を幅広く深く理解し、魅力的・効果的な指導を展開できる知識・技能を身につけている。二つ以上の単元について、生徒たちの発想やつまづきを予め想定し、生徒たちを引きつけつつ力をつける授業づくりに役立つような教材研究を行っている。		
5. 合格レベル（良） （教職課程修了時）	教科書の基本的な内容を、的確に理解している。二つ以上の単元について、魅力的・効果的な指導に役立つような教材研究を行っている。		
4. 合格レベル（可） （教職課程修了時）	教科書の内容を、一通り理解している。少なくとも一つの単元について、指導に役立つような教材研究を行っている。		
3. 教育実習前に求められる準備レベル （およそ3回生終了時）	必要な「教科に関する科目」の単位について少なくとも3分の2程度を修得している。教育実習で教える単元について、必要な知識・技能を身につけている。		
2. 教育実習1年前に期待されるレベル （およそ2回生終了時）	必要な「教科に関する科目」の単位について、少なくとも3分の1程度を修得している。		
1. 学び始めのレベル （およそ1回生終了時）	体育、外国語コミュニケーション、情報機器の操作などの単位を修得している。		

■下記の目標については、主として次に示した対応する科目によって到達をめざすこととなります。

目標到達の確認指標	対応する科目	関連する科目
□C1 学習指導の基本的事項（教科等の知識や技能）を身につけている。	教科に関する科目 教科教育法	教育方法論 教育課程論
□C2 自ら主体的に教材研究を行うとともに、それを活かした学習指導案を作成することができる。	教科教育法	教育方法論
□C3 教科書の内容を十分理解し、教科書を介して分かりやすく学習を組み立てるとともに、生徒からの質問に的確に答えることができる。	教科教育法 教育実習Ⅰ・Ⅱ	

■ポートフォリオには、次のような成果資料を残しましょう（下線部は必須）

- 教科に関する科目で提出したレポートや答案（C1）
- 教材研究の記録（形式は自由。学習指導案でも可）（C2）
- 教育実習などにおいて、生徒から受けた質問と自分の回答（C3）

目標に到達したことを示す成果資料

セクションD. 教科等の授業づくりの力量

■趣旨

教師には、生徒たちが惹きつけられ、集中して効果的に学ぶことができるような授業づくりの力量が求められます。的確な目標を設定し、有効な教材を用意し、明快に話し、様々な指導法を駆使して、生徒たちの学習を促進する力が必要です。一人ひとりの生徒のニーズに気を配るとともに、生徒同士の交流を学習に活かす工夫も重要です。

このセクションでは、教科教育法での模擬授業や教育実習での授業づくり等を通して、魅力的で効果的な授業を実践する力を身につけましょう。

■下記は、期待される水準の目安を示したものです。

レベル	期待される水準	レベル到達の確認年月日	
		自己評価	教員の確認
6. 合格レベル（優） （教職課程修了時）	生徒の特徴を把握し、それに対応できる様々な指導上の工夫を行って、すべての生徒に効果的な学習を促すような魅力的な授業を実践することができる。		
5. 合格レベル（良） （教職課程修了時）	生徒の特徴を把握し、それに対応できる様々な指導法を用いて、多くの生徒の集中を途切れさせないような授業を実践することができる。		
4. 合格レベル（可） （教職課程修了時）	基本的な指導技術を使って、筋の通った1時間の授業を実践することができる。		
3. 教育実習前に求められる準備レベル （およそ3回生終了時）	教科教育法を少なくとも一つは履修し、学習指導案の基本的な書き方を知っている。模擬授業を少なくとも1回は行い、多人数に対して話すことのイメージを把握している。		
2. 教育実習1年前に期待されるレベル （およそ2回生終了時）	様々な人に対して、自分の思いや意見を、わかりやすく伝えることができる。		
1. 学び始めのレベル （およそ1回生終了時）	身近な人に対して、自分の思いや意見を伝えることができる。		

■下記の目標については、主として次に示した対応する科目によって到達をめざすこととなります。

目標到達の確認指標	対応する科目	関連する科目
□D1 板書や発問、的確な話し方など基本的な授業技術と表現力を身に付けるとともに、生徒の特徴を的確に把握し、生徒の反応を生かしながら、集中力を保った授業を行うことができる。皆で協力して取り組む姿勢を育む指導法等を身につけている。	教科教育法 教育実習Ⅰ・Ⅱ	教育方法論 教職実践演習
□D2 基礎的な知識や技能について反復して教えたり、板書や資料の提示を分かりやすくするなど、基礎学力の定着を図る指導法を工夫することができる。	教科教育法 教育実習Ⅰ・Ⅱ	教育課程論 教職実践演習
□D3 ICT を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方について理解し、基礎的な指導法が身についている。	教科教育法 教育実習Ⅰ・Ⅱ	教育方法論 教職実践演習
□D4 誠実、公平かつ責任感を持って生徒に接し、生徒から学び、共に成長しようとする意識を持って、指導に当たることができる。	教育実習Ⅰ・Ⅱ	教職教育論 教職実践演習
□D5 生徒の成長や安全、健康管理に常に配慮して、具体的な教育活動を組み立てることができる。	教育実習Ⅰ・Ⅱ	教職実践演習

■ポートフォリオには、次のような成果資料を残しましょう（下線部は必須）。

- 自分が行った授業の記録・録画（D1、D2、D3、D4、D5）
※録画の際には必ず許可を得ること。
- 学習指導案と振り返りのメモ（実践した際の成功点・反省点・改善案などを記したもの）
（D1 など）
- 板書や工夫した教材の写真、生徒に配布したプリント等（D1、D2）
- 指導の成果がうかがわれるような、生徒のノートのコピー等（D1、D2、D3）
※コピー、撮影などの際には必ず許可を得ること。
- 教育実習ノートの日誌部分のコピー（D1、D2、D3、D4、D5）
- 教育実習などにおいて指導教員からいただいたコメント（D1、D2、D3、D4、D5）
- 教育実習などにおいて生徒たちからもらったコメント（D1、D2、D3、D4）
- 先行する教科教育の実践事例について、検討するレポート（D1、D4）

目標に到達したことを示す成果資料

セクション E. 課題探究力

■趣旨

教師には、学び続ける力が必要です。優れた教師たちにも、必ず新任教員の時代がありました。その時々直面する課題に正面から向き合い、自分なりの目標を設定して、一つひとつのチャレンジを繰り返していくことによってこそ、力量を伸ばすことができるのです。したがって教師には、様々な知見を吸収し、自由な発想から、新たな実践を創造していく力が求められます。一方で、長い教師人生においては、バーンアウトしないためのセルフコントロールの力を身につけ、必要に応じて助けを求めることも重要になることでしょう。

教職課程全体を通して、創造的な教師となるための課題探究力を身につけていきましょう。

■下記は、期待される水準の目安を示したものです。

レベル	期待される水準	レベル到達の確認年月日	
		自己評価	教員の確認
6. 合格レベル（優） （教職課程修了時）	常に新しいことにチャレンジする姿勢をもち、自己研鑽に努めている。自分の資質・能力を活かすような、優れた創造力を発揮している。		
5. 合格レベル（良） （教職課程修了時）	教育実習を修了するとともに、自分の到達点と課題を的確に自覚している。様々な学習機会を積極的に活用し、効果的に力量形成を図っている。		
4. 合格レベル（可） （教職課程修了時）	教育実習を修了するとともに、自分の到達点と課題を自覚している。課題を克服するための努力を始めている。		
3. 教育実習前に求められる準備レベル （およそ3回生終了時）	教育実習生であっても、生徒の前では一人の教師としての責任を担うことを自覚している。「生徒にこれだけは伝えたい」と思えるような体験談、メッセージなどを持っている。		
2. 教育実習1年前に期待されるレベル （およそ2回生終了時）	課題探究の基本的な方法（調査の仕方、ゼミ発表の仕方、レポートの書き方など）を身につけている。		
1. 学び始めのレベル （およそ1回生終了時）	自己成長にとって必要だと自分で確信できるような体験をしている。		

■下記の目標については、教職課程を履修するプロセス全体を通して、到達を目指すこととなります。「対応する科目」・「関連する科目」については、自分でも書き込みましょう。

目標到達の確認指標	対応する科目	関連する科目
□E1 自己の課題を認識し、その解決に向けて、自己研鑽に励むなど、常に学び続けようとする姿勢を持っている。		全科目
□E2 社会状況や時代の変化に伴い生じる新たな課題や生徒の変化を、進んで捉えようとする姿勢を持っている。	教育課程論	全科目
□E3 創造性のある指導計画（指導案、学級経営案など）を作成し、それに基づく実践をしようとする姿勢を持っている。	教科教育法	教育方法論 教育課程論
□E4 「生徒にこれだけは伝えたい」と思えるような体験談、メッセージなどを持っている。		

■ポートフォリオには、次のような成果資料を残しましょう（下線部は必須）。なお、他のセクションに対応する成果資料が収録されている場合は、該当するポケット番号を明示するメモを入れておくのでも構いません。

- 自分で設定した課題に関するレポート（E1）
- 社会状況や時代の変化に伴い生じる新たな課題や生徒の変化について考察するレポート（E2）
- 創造性のある指導計画と、工夫した点などについて説明する文章（E3）
- 自分ならではの体験談、メッセージ（E4）

活動の記録

所属 _____ 4 番の記入日 _____ 年 月 日

_____ 回生 学生番号 _____ 氏名 _____

1. 活動の概要 ①内容 ②場所 ③日時	2. 対応する確認指標
3. 参加するにあたっての自己目標（活動前に記入すること）	
4. 活動を通して学んだこと、自分自身が達成できたこと	